

横浜の交通を考えるシンポジウム 「まちの交通のために、みんなが、今、できること」 アンケート調査のまとめ

1. シンポジウムの開催概要

- 過度にクルマばかりに依存せず、地球環境にも、心身の健康にも、まちの賑わいにも寄与する「これからの交通のあり方」を考え、実践していくためには、現在の交通やまちの現状を把握し、市民、交通事業者、行政がそれぞれの役割を認識することが大切です。
- そのためのきっかけの場として、平成 28 年 9 月 24 日に横浜市交通政策推進協議会モビリティマネジメント推進部会が主体となり、「横浜の交通を考えるシンポジウム～まちの交通のために、みんなが、今、できること～」を開催しました。
- 基調講演では、「生活の質」を重視するようになった交通計画の変遷や、海外事例を踏まえた交通とまちの関係性、郊外が支える横浜の実態とこれからの方向性についての話がありました。
- パネルディスカッションでは、交通事業者や福祉関係者、市民それぞれの立場から、バスやタクシー、福祉有償運送等の多様な交通手段を活用した郊外の交通のあり方や、地域の交通問題を地域で考えるプロセスなど、具体性のある提案が示されました。

▼基調講演



▼パネルディスカッション



▼横浜の交通を考えるシンポジウム

【開催日】	平成 28 年 9 月 24 日 (土)	【参加者】	約 85 人
【会場】	パシフィコ横浜 アネックスホール F202		
【内容】	①基調講演 (横浜国立大学中村文彦先生) ②施策紹介 (横浜市都市整備局) ③パネルディスカッション テーマ 1 横浜の郊外部の交通が抱えている現状と課題について テーマ 2 交通政策推進の方向性について		

2. アンケートの回答状況

- シンポジウムの参加者に、アンケートを行いました。アンケート回答数は 70 人でした。

▼シンポジウム アンケート調査項目

問 1	プロフィールについて (年齢、性別、住まい、職業)		
問 2	日常の移動手段について、 ①現在の利用頻度 (交通手段別に調査) ②将来の利用頻度		
問 3	市の交通政策への意見、公共交通の現状に対して思うこと (自由記入)		
問 4	講演内容に関する意見・感想について ①基調講演 ②パネルディスカッション		
問 5	本日の内容を踏まえ、今後、自身の交通行動を変えようと思うか。		
問 6	本日のシンポジウムの感想 (自由記入)		

3. アンケートの回答について

①本シンポジウムの参加者について

■性別・年齢

- 回答者の年齢層は、50歳代が最も多く、続いて40歳代と60歳代が多い結果となりました。
- 性別は、男性が70人中58人と8割以上を占めていました。

▼年齢

年齢	件数
1 20歳未満	2
2 20歳代	5
3 30歳代	3
4 40歳代	13
5 50歳代	22
6 60歳代	12
7 70歳代	10
8 80歳代	1
無効	2
合計	70

▼性別

性別	件数
1 男性	58
2 女性	12
無効	0
合計	70

■交通・福祉関係等への従事状況

- 参加者の70人の内訳として、交通事業や市民団体、行政関係の方が多く、福祉関係に関連する方は複数回答の方を含めて5人と少ない結果となりました。
- 交通等の専門的な知見を持った関係者の参加が多いシンポジウムとなりました。

▼職業など

職業など	件数
1 交通事業に従事	10
2 福祉関係に関連	3
3 市民団体(交通)に所属	11
4 行政関係に従事	12
1 交通+2 福祉	1
1 交通+3 市民団体	3
1 交通+3 市民団体+4 行政	1
1 交通+4 行政	1
2 福祉+3 市民団体	1
3 市民団体+4 行政	1
無効	26
合計	70

■住まいの状況

- 70人中33人が市内居住者であり、比較的、会場となった「みなとみらい地区」へのアクセスがしやすい都心部近郊からの参加が多いシンポジウムとなりました。
- 一方、県内外からも1割以上の参加者が見られました。

▼住まい(居住地)

住まい	件数
1 横浜市内	52
2 神奈川県内	7
3 その他都道府県	11
無効	0
合計	70

▼市内居住者の最寄り駅

最寄り駅	件数
1 洋光台	4
2 山手	3
3 横浜	2
4 鴨居	2
5 戸塚	2
6 市ヶ尾	2
7 上永谷	2
8 杉田	2
9 西谷	2
10 青葉台	2
11 中山	2
12 弥生台	2
一 他回答1件の駅	23
無効	2
合計	52

■回答1件の駅

あざみ野	石川町	大船
金沢文庫	菊名	こどもの国
桜木町	瀬谷	高田
立場	綱島	十日市場
中川	中田	長津田
生麦	根岸	白楽
藤が丘	保土ヶ谷	本郷台
和田町	みなとみらい	

②シンポジウム参加者の日常の移動手段について

■交通手段別の利用状況(現状と将来)

- 交通手段別の利用状況を整理すると、現在「鉄道」を「ほぼ毎日(週5日以上)」利用する方は70人中38人と半数以上でした。また、「徒歩」を「ほぼ毎日(週5日以上)」と回答した方も31人と比較的多い結果でした。
- 現在のマイカーの利用状況を見ると、回答者の3割以上が週1日以上利用しています。特に、週1～2日程度利用する方は16人と比較的多かったです。
- マイカー利用について、現在と将来を比較すると、週1日以上利用する人は24人から18人に減るとい結果になりました。

▼交通手段別の利用状況について

マイカー	現在	将来
ほぼ毎日(週5以上)	4	3
週3～4日	4	7
週1～2日	16	8
月3～4日(隔週)	-	-
月1～2日	6	7
年10日程度(毎月)	-	-
年9日以下	1	-
無効	39	45
合計	70	70

バス	現在	将来
ほぼ毎日(週5以上)	15	12
週3～4日	7	10
週1～2日	9	8
月3～4日(隔週)	3	2
月1～2日	8	6
年10日程度(毎月)	1	-
年9日以下	2	-
無効	25	32
合計	70	70

鉄道	現在	将来
ほぼ毎日(週5以上)	38	24
週3～4日	4	5
週1～2日	14	9
月3～4日(隔週)	1	1
月1～2日	2	2
年10日程度(毎月)	1	-
年9日以下	-	-
無効	10	29
合計	70	70

タクシー	現在	将来
ほぼ毎日(週5以上)	1	1
週3～4日	-	-
週1～2日	2	5
月3～4日(隔週)	-	1
月1～2日	11	7
年10日程度(毎月)	-	1
年9日以下	12	5
無効	44	50
合計	70	70

自転車	現在	将来
ほぼ毎日(週5以上)	5	3
週3～4日	4	4
週1～2日	5	4
月3～4日(隔週)	1	4
月1～2日	5	1
年10日程度(毎月)	1	-
年9日以下	2	1
無効	47	53
合計	70	70

徒歩	現在	将来
ほぼ毎日(週5以上)	31	25
週3～4日	8	5
週1～2日	4	4
月3～4日(隔週)	-	-
月1～2日	2	-
年10日程度(毎月)	-	-
年9日以下	-	-
無効	25	36
合計	70	70

その他	現在	将来
ほぼ毎日(週5以上)	1	3
週3～4日	-	1
週1～2日	-	-
月3～4日(隔週)	-	-
月1～2日	1	1
年10日程度(毎月)	-	-
年9日以下	-	1
無効	68	64
合計	70	70

■集計方法

調査票では、交通手段別に【週・月・年】を選択後、自由記入形式で回数を記入する方式となっています。

本集計では、上記回答内容をもとに、「ほぼ毎日」から「年9日以下」のカテゴリに再分類し、集計しています。

■【現在】と【将来】の交通手段の変化

- 交通手段として一定の利用が見られる、「マイカー」、「バス」、「鉄道」、「徒歩」について、【現在】と【将来】の交通手段の変化を表に示します。
- 「マイカー」について、【現在】（表左側）と【将来】（表上側）の利用状況をみると、現在「マイカー」を使っている人のうち、将来は利用回数が「減る」と思う人と「増える」と思う人が、同数の4人となりました。
- 【将来】の「バス」利用が「増える」と思う人は11人と多い一方で、「鉄道」利用は「減る」と思う人が多くなりました。例えば、今、電車で通勤している人でも、退職後、地域でお出かけする際には、バスや徒歩、マイカーを使うということが考えられます。

▼【現在】と【将来】の交通手段の変化

マイカー	将来									現在 総計
	週5日 以上	週 3~4日	週 1~2日	月 3~4日	月 1~2日	年10日 以上	年9日 以下	無効	(空白)	
現在	週5日以上		2						2	4
	週3~4日	1	2				減る 4人		1	4
	週1~2日		3	6		2		1	4	16
	月3~4日									
	月1~2日	増える 4人				4		1	1	6
	年10日以上									
	年9日以下								1	1
	無効 (空白)							2	2	4
将来総計	2		2		1		1	29	35	
将来総計	3	7	8		7		5	40	70	

バス	将来									現在 総計
	週5日 以上	週 3~4日	週 1~2日	月 3~4日	月 1~2日	年10日 以上	年9日 以下	無効	(空白)	
現在	週5日以上	8	1	2		1			2	15
	週3~4日	2	3				減る 7人	1	2	7
	週1~2日		2	3		2		1	1	9
	月3~4日		1	1		1				3
	月1~2日	増える 11人	2	1	2	2			1	8
	年10日以上								1	1
	年9日以下								2	2
	無効 (空白)			1					2	3
将来総計	2	1					2	17	22	
将来総計	12	10	8	2	6		5	27	70	

鉄道	将来									現在 総計
	週5日 以上	週 3~4日	週 1~2日	月 3~4日	月 1~2日	年10日 以上	年9日 以下	無効	(空白)	
現在	週5日以上	22	3	1	1				11	38
	週3~4日	1	1	1					1	4
	週1~2日		1	6				3	4	14
	月3~4日					1				1
	月1~2日	増える 3人		1		1				2
	年10日以上								1	1
	年9日以下									
	無効 (空白)								4	4
将来総計	1						1	4	6	
将来総計	24	5	9	1	2		4	25	70	

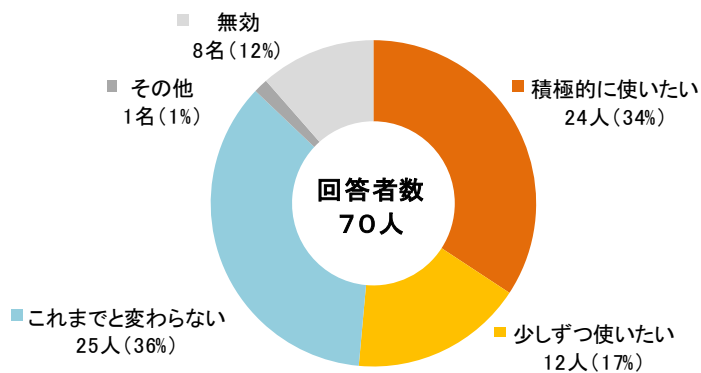
▼【現在】と【将来】の交通手段の変化(つづき)

徒歩	将来								現在 総計	
	週5日 以上	週 3~4日	週 1~2日	月 3~4日	月 1~2日	年10日 以上	年9日 以下	無効 (空白)		
現在	週5日以上	20	1	1			減る 3人	2	7	31
	週3~4日	3	2	1					2	8
	週1~2日	1		2				1		4
	月3~4日									
	月1~2日	増える 5人	1						1	2
	年10日以上									
	年9日以下									
	無効 (空白)	1						1	2	4
将来総計	25	5	4				5	31	70	

③交通行動に対する意識の変化

- 今回のシンポジウムを受けて、バスやタクシーなどの公共交通を使う意識の変化を聞いたところ、70人中24人(34%)が「積極的に使いたい」、12人(17%)が「少しずつ使いたい」と回答しており、半数の方に公共交通の利用意識が生まれたと考えます。
- 一方で、「これまでと変わらない」とする意見も25人(36%)であることから、モビリティマネジメントの一層の推進を行い、意識を変えるきっかけづくりなどが今後も必要と考えられます。

▼シンポジウムを受け、今後公共交通を積極的に使うか？



4. 自由記入の回答について（主な意見）

①市の交通政策への意見、公共交通の現状に思うこと

■市内在住者

- 既存バス路線のバス停まで出ることが、高齢化のため、また、地形の高低差により困難であると考えの方が近年増加しているように思われる。既存バス路線と住宅をつなぐフィーダー路線が今後、必要になってくると思われる。(30代/男性)
- 横浜市においては、都心部や郊外の拠点となる街を見る限り、公共交通が充実していると思う反面、郊外部においては起伏が多い地形特性や狭あい道路のため、公共交通の整備が難しいところも多く見られる。今後、超高齢化社会を迎えていく中で、郊外部を中心とした移動手段をどのように考えていくのかは、重要な課題であると考えられる。(40代/男性)
- 「少子高齢化」を前提とした交通課題に対して、10代、20代における交通課題を検討、解消する必要があるのでは。高齢者のための交通だけが発達しても、そこに10代、20代への魅力がなければ、先はないのではと思う。(40代/男性)
- 情報弱者へのバス等の情報発信が少ない。(40代/男性)
- バスは今のネットワークが保たれる為にどうしたらよいか（再編等の効率化）。そのうえでバスで足りない所には何を補うべきか。プラス、街の機能として何があるべきか。⇒今回の趣旨の通り、新たに3者（市民、事業者、行政）で考えるべき課題だと思う。(40代/男性)
- バスと鉄道との接続がよくない。歩道よりも車道（高速道路）を造ることを優先している（例、環状北・北西線等）。歩行者専用道を設けるべきだ。(50代/男性)
- バス、電車の定時性の向上に期待する。（特に通勤時。）休日の終バスが早すぎる。(50代/男性)
- LRT など新しい交通システムの実現を検討する際は、純粋な交通の問題としてだけでなく、街づくり、地域の活性化、都市イメージの向上など、多様な観点から評価をし、積極的に検討することを望む。(50代/男性)
- 環状鉄道がほしい。人口370万人の大都市です。横浜駅での乗り換えはいつでも（大）人ごみの中。群衆の中、人が多過ぎる。市内での移動は、どうしても横浜駅乗り換えとなる。したがって、どの路線も横浜駅近くになると混雑してくる。横浜全体の発展、充実を考えた時、必要です。(60代/男性)
- 横浜市全体の交通施策の中に、区単位で協議できる会議（協議会）の設置を義務付けたらどうか。通勤通学をターゲットにした交通施策を大胆に見直してほしい。特に（バスを多く利用しているので、）昼間のバスの混雑には驚く。最近では児童（小学生）の利用者と高齢者が一緒のバス空間を体験することが多いが、どちらも交通弱者という視点で昼間の各種データをとって分析し、今後の施策に活かしてほしい。(60代/女性)

■ 市外在住者

- 安全安心を第一とし、福祉部門や環境部門ほか関係部署とも連携し、政策を計画、推進していただきたい。(県内 60代/男性)
- 郊外部における人口減少に伴う公共交通の対応について心配。(県外 50代/男性)
- 交通手段の優先順位をもう少し明確にした政策の展開がほしい。(県外 70代/男性)

■ 居住地無回答

- 都内と違い、バスの系統番号が会社毎に違いわかりにくい。停留所の時刻表表示が鉄道と異なりわかり易さに配慮されていない(小さすぎる時刻表等)。乗継割引等が殆ど行われていない。(40代/男性)
- 地域によって事情が違うので、行政側と市民との対話をする機会を増やし、現状を把握し、公共交通の充実を図っていきたいと思う。(50代/女性)
- バス停まで遠い、昔に開発された住宅地が大変多い。車が入れないように階段を多くとり入れた宅地開発も高齢者等の外出を阻む要因となっている。福祉政策との連携した取組みが必要だと思う。(50代/女性)
- 公共交通(バス・電車等)のミックス利用の場合、料金割引があると良い。特に、バスの乗継割引によるサービスは望みたい。(年齢不詳/男性)

②基調講演に対するご意見・ご感想

- 海外事例は大変面白いものが多く、それを日本で適用できないにしても、小さいところに取り入れられるところを学んでいくべきだと思った。(10代/男性 他複数)
- 今、そして今後考えていかなければならない交通政策のイメージが少しつかめたように思う。(市内 30代/男性 他)
- 交通計画の考え方の変遷や海外事例などの紹介、また、これらを踏まえながら、将来、横浜の公共交通を考える上では郊外部における対策が重要であることが理解でき、大変貴重な講演だった。(市内 40代/男性)
- もう少し、市民の役割や立場についても聞きたかった。(市内 50代/男性 他2件)
- 豊富な事例で興味深い内容だった。郊外部、都市部へバランスある発展と連携の重要性が再認識させられた。(市内 50代/男性)
- どの移動についても徒歩は不可欠であり、歩行空間をどのように確保していくかなど今後そのような視点をもって、交通政策を考えていきたいと思った。(県外 30代/男性 他)
- 大変わかりやすい講演だった。まちの変化に対応した都市計画、交通政策が求められている。公共交通の充実が生活の質が豊かなものになるという視点をもっと発信していきたい。(50代/女性)
- 近未来の少子高齢化と外部からのインバウンド観光需要の両面の指針をいただき、勉強になった。(60代/男性)

③パネルディスカッションに対するご意見・ご感想

- 事業者の観点があったのが新鮮だった。(市内 20代/男性)
- 市民の立場、事業者の立場、行政の立場、それぞれの考え方がわかった。(良い機会だった、参考になった、など多数意見あり)(市内 20代/男性 他複数)
- それぞれの立場から横断的に議論する場を設けて、実現可能なスキームが確立されるよう、市の役割・立場を期待する。(市内 40代/男性)
- 色々な話題で、課題に対して連携して取り組んでいかないといけないということが分かった。(県内 40代/男性)
- MMの地域版を提案されたのは大変よかった。(市内 60代/女性 他)
- 地域内の交通を考えたとき、いかに福祉の問題が大切かということを実感した。また、タクシーの存在について、”運賃が高くて遠い存在”からの転換を考えるべきと思った。(10代/男性)
- なかなか難しいですが、フリーディスカッションも見えたかった。(市内 40代/男性)

④シンポジウム全体の感想など

- 生活の質の向上という目的のための手段として、いかに交通を考えていくかが重要だと改めて認識した。(市内 20 代/男性)
- 「公共交通」と「福祉」については、切り離して議論は難しいと思います。「福祉」についての崇高な理念はわかりますが、一方では、「安全」についての議論が軽視されがちになります。難しい課題と認識しますが、どういう形で共存していくべきか、引き続き考えていく必要があると思いました。(市内 40 代/男性)
- 今後の課題として、福祉政策と交通政策の連携が必要と思った。(市内 50 代/男性 他)
- これからは電車やバス、タクシーなど単体だけでなく、連携していくことも大切だと感じた。良いアイデアも出ると思うので、それに市民も加わり、これからの少子高齢化社会にいかしてほしい。(50 代/女性)
- 区ごとに MM 部会があるといいという松川さんの意見に共感。(県内 60 代/女性 他)
- 交通施策に無関心な人に対し、本日のシンポジウムの内容をいかにして理解してもらうかが課題。(40 代/男性)
- みんなで知恵を出してできることが意外に多いことに感心した。(県外 50 代/男性)
- 横浜という都市の交通のあり方について考える機会になった。(10 代/男性)
- パーク&ライドなどマイカーと公共交通の共存策、両者をうまく使う「スマート」な移動の事例や政策の紹介を期待したい(日本は EU と比較し、これがすごく弱いと感じる)。(県外 50 代/男性)